



関西経済レポート (6月号)

- 4月の鉱工業生産指数は2カ月ぶりの前月比マイナス。5月の実質輸出も減少していることもあり、今後の生産は停滞が予想される。
- 5月の貿易動向は輸出は27カ月連続で前年比増加、輸入は3カ月連続で減少。結果、貿易収支は3カ月連続の黒字。
- 5月の消費者態度指数、景気ウォッチャー現状判断DIはともに悪化。先行きも悪化しており、円安による物価上昇や原材料コスト増加、電気料金値上げに対する懸念が大きい。
- 5月の大型小売店の販売額は、2カ月連続の前年比増加。これは消費増税の影響で、前年の販売額が低水準であるためである。
- 5月新設住宅着工戸数は前年比+3.2%増加し、9カ月ぶりのプラス。
- 5月の有効求人倍率は2カ月連続の上昇。新規求人倍率は低下したものの、インバウンド関連業種は引き続き堅調。失業率は2カ月連続で悪化した。景気の好転による職探しの動きを反映したものと考えられる。
- 5月の公共工事請負金額は前年比-26.5%と2カ月ぶりの大幅マイナス。4月の建設工事は同+5.8%と2カ月連続のプラス。建設工事の伸びは停滞しているが、全国、関西とも前月から幾分上向きとなった。
- 中国の6月の製造業購買担当者景況指数は前月から横ばい。2月に5カ月連続の前月比マイナスから脱したものの、改善は極めて緩やかである。

※「近畿」「関西」は、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山の2府4県。
鉱工業生産、大型小売店販売額のみ、福井を含む2府5県。

※本レポートは、一般財団法人アジア太平洋研究所
“Kansai Economic Insight Monthly”と連携しています。

～ 関西経済のトレンド ～

	2014年							2015年					
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
生産	↓	↑	↓	↑	↑	↓	↑	↑	↓	↑	↓	—	—
貿易	↓	↑	→	→	↑	→	↑	↑	↓	↑	↑	↑	—
センチメント	↑	↑	↓	↓	↓	↓	↑	↑	↑	↑	→	↓	—
消費	→	→	↑	↑	↑	↑	↑	→	↑	↓	↑	↑	—
住宅	→	↓	↑	↓	↓	↓	↓	↓	↓	→	↓	↑	—
雇用	→	→	→	→	↑	↑	↑	→	→	→	↑	↑	—
公共工事	→	→	→	↓	↑	↓	↓	↓	↓	↓	↑	↓	—
中国	↑	↑	↓	↑	→	↓	↓	↓	→	↓	↓	→	→

～目次～

生産	1
輸出入	2
消費者センチメント	3
個人消費・住宅	4
雇用	5
公共投資	6
中国経済動向	7

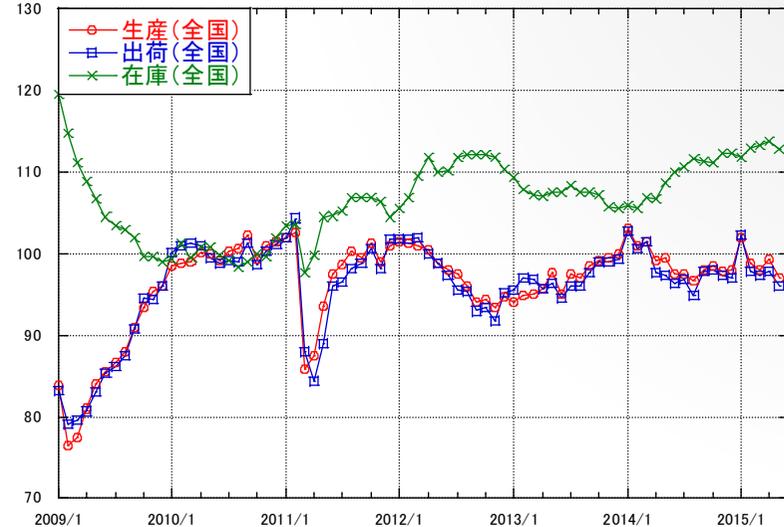
～生産～

鋳工業指数の推移（近畿・2015年4月まで）、2010年=100



(出所) 近畿経済産業局「近畿経済の動向」

鋳工業指数の推移（全国・2015年5月まで）、2010年=100

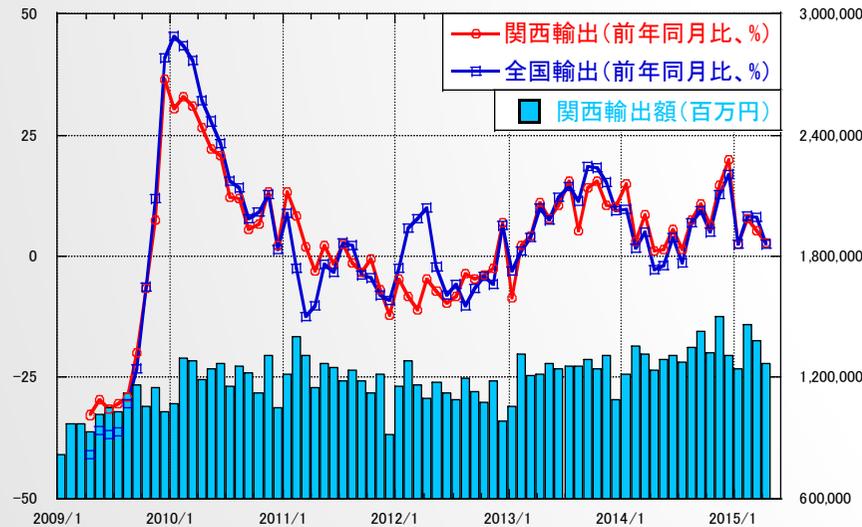


(出所) 経済産業省「鋳工業指数」

- 関西における4月の鋳工業指数(確報値：季節調整済)は、生産は102.1で前月比-4.1%と2カ月ぶりのマイナス、出荷は100.7で同-2.1%と3カ月連続の低下。一方、在庫は116.7で同+0.2%と2カ月ぶりの上昇となった。
- 業種別にみると、はん用・生産用・業務用機械(同-20.5%)、電気機械(同-15.3%)、鉄鋼(同-5.2%)等が減産となった。一方、電子部品・デバイス(同+15.0%)、金属製品(同+11.0%)、化学(除. 医薬品)(同+1.5%)等は増産となった。
- 年度初めの関西の生産は低下でスタートした。1-3月期はプラスの伸びであったが、生産水準は低下傾向にある。近畿の5月の実質輸出の伸びはマイナスとなっており、減産が予想される。なお、全国の製造工業生産予測調査も6月(同+1.5%)、7月(同+0.6%)は緩やかな増産にとどまっている。
- 全国における5月の鋳工業生産指数(速報値、季節調整済)は97.1となり前月比-2.2%、出荷は96.0で同-1.9%といずれも2カ月ぶりの下落。在庫は112.9で同-0.8%と4カ月ぶりのマイナスとなった。
- 業種別にみると、輸送機械(同-5.4%)、化学(除. 医薬品)(同-6.1%)、電子部品・デバイス(同-4.3%)等が減産となった。一方、情報通信機械(同+2.0%)、鉄鋼(同+0.5%)、繊維(同+0.7%)等は増産となった。
- 5月の生産は、製造工業生産予測調査の予測(+0.5%)を下回り減産となった。同調査は6月は前月比+1.5%、7月は同+0.6%と増産の予定であるが、仮に、6月の予想が実現したとしても、4-6月期は前期比-1.4%と3期ぶりの減産となる。

～輸出入～

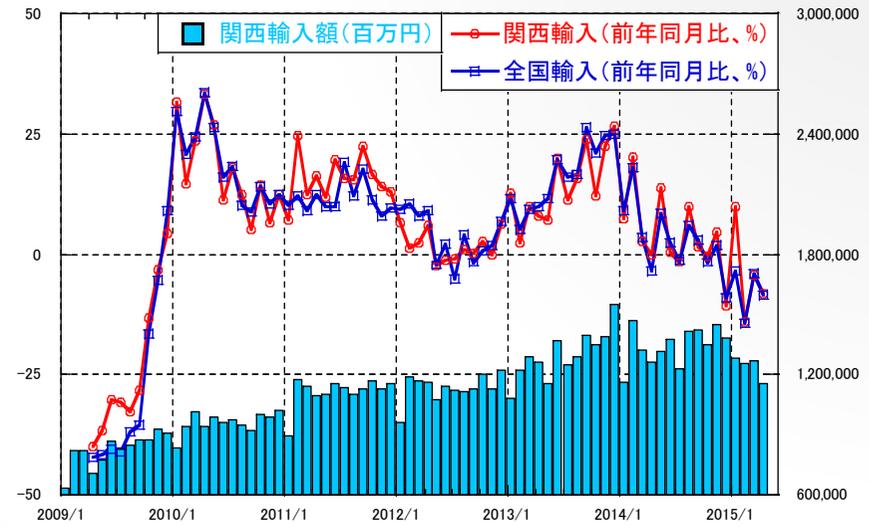
輸出動向 (右：輸出額、左：前年同月比) (2015年5月まで)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

- 関西5月の輸出額(速報値)は1兆2,642億円、前年同月比+2.7%と27カ月連続の増加。
- 輸出増加に主に貢献したのは、半導体等電子部品(単月過去最高額)、通信機であった。一方、鉄鋼、科学光学機器は減少となった。
- 全国5月の輸出額(確報値)は5兆7,403億円となり、前年同月比+2.4%と9カ月連続の増加。財別に見れば、半導体等電子部品、船舶、及びポンプ・遠心分離機等の輸出が増加した。
- なお、5月の為替レート(税関長公示レートベース)は119.49円と前年同月比-17.0%の円安であった。

輸入動向 (右：輸入額、左：前年同月比) (2015年5月まで)

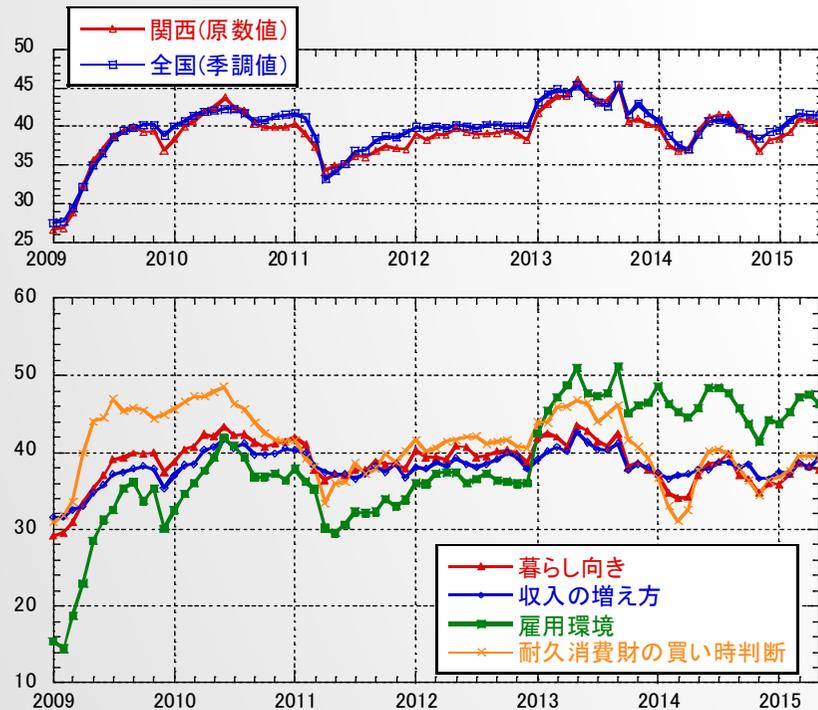


(出所) 財務省「貿易統計」

- 関西5月の輸入額(速報値)は1兆1,551億円、伸びは前年同月比-8.2%と3カ月連続の減少。
- 財別に見れば、原油及び粗油、天然ガス及び製造ガス等が減少した。通信機(単月過去最高額)、半導体等製造装置(過去最高額)等は増加した。
- 全国5月の輸入額(速報値)は5兆9,575億円、前年同月比-8.7%と5カ月連続の減少。財別に見れば、原粗油、液化天然ガス、鉄鉱石等の輸入が減少した。
- 結果、関西の貿易収支(速報値)は+1,091億円と3カ月連続の黒字となり、前年同月から1,364億円の改善。全国の貿易収支(確速値)は-2,172億円と2カ月連続の赤字だが、赤字幅は前年同月から-76.3%縮小した。

～消費者センチメント～

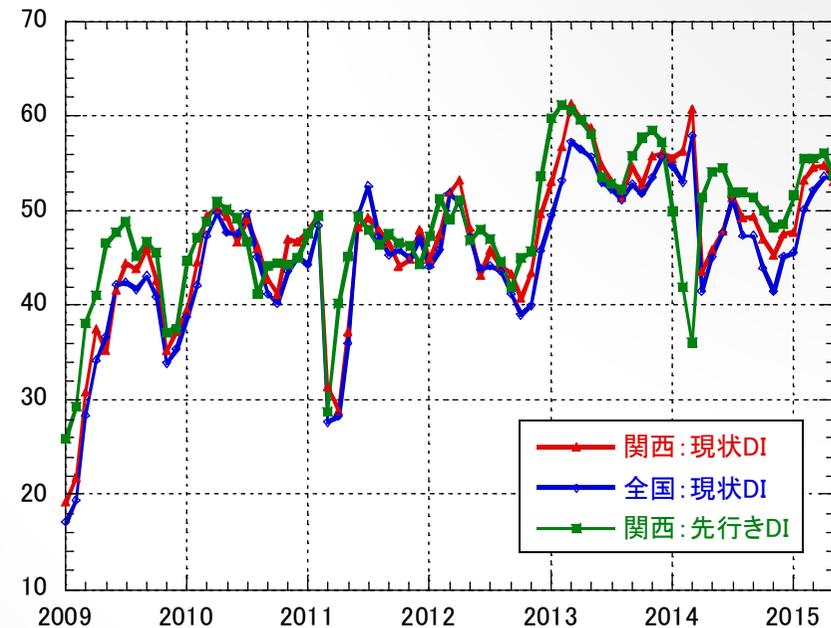
消費者態度指数(2015年5月まで)



(出所) 内閣府「消費動向調査」

- 関西の5月の消費者態度指数(原数値)は前月比-0.1ポイントの40.7と、2カ月連続の悪化。全国(季節調整値)でも同-0.1ポイントの41.4とこちらも2カ月連続の悪化。これを受けて内閣府は消費者心理の基調判断を6カ月ぶりに下方修正した。
- 関西で同指数の構成項目をみると、5月は「収入の増え方」が同+1.2ポイントで2カ月ぶりに上昇。一方、「雇用環境」は同-1.2ポイントと4カ月ぶりの悪化、「暮らし向き」は同-0.5ポイントと2カ月連続の悪化、「耐久消費財の買い時判断」は同-0.2ポイントと6カ月ぶりに悪化した。

景気ウォッチャー調査(2015年5月まで)

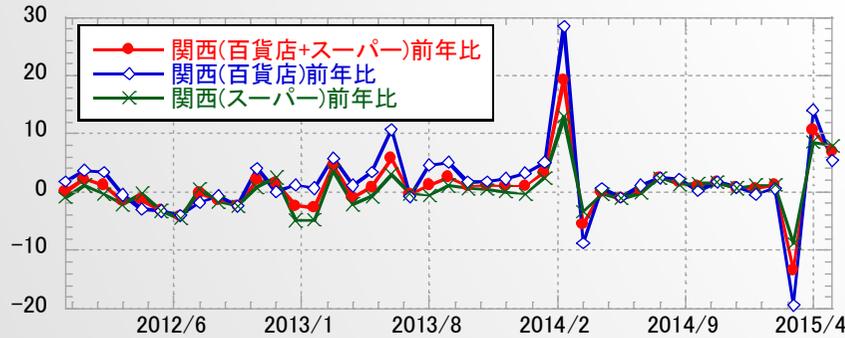
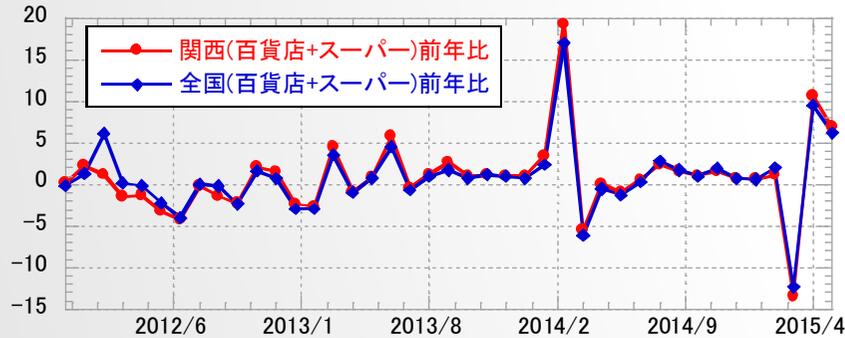


(出所) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

- 関西の5月の現状判断DIは前月比-1.8ポイント下落し53.1となり、6カ月ぶりの悪化。インバウンド関連の好調が続いたものの、円安に伴うコスト上昇や商品の値上げ等がマイナスに働いた。全国は同-0.3ポイントとこちらも6カ月ぶりに悪化し53.3となった。
- 先行き判断DIは、関西では53.7と前月比-2.4ポイント悪化。賃上げや夏のボーナス増加はプラスに働くものの、円安による物価上昇や原材料コスト増加等がマイナス要因として働いた。一方、全国は同+0.3ポイント上昇して54.5となり、6カ月連続の改善。関西では家庭向け電気料金の値上げが始まることが見通しを悪化させているとみられる。

～個人消費・住宅～

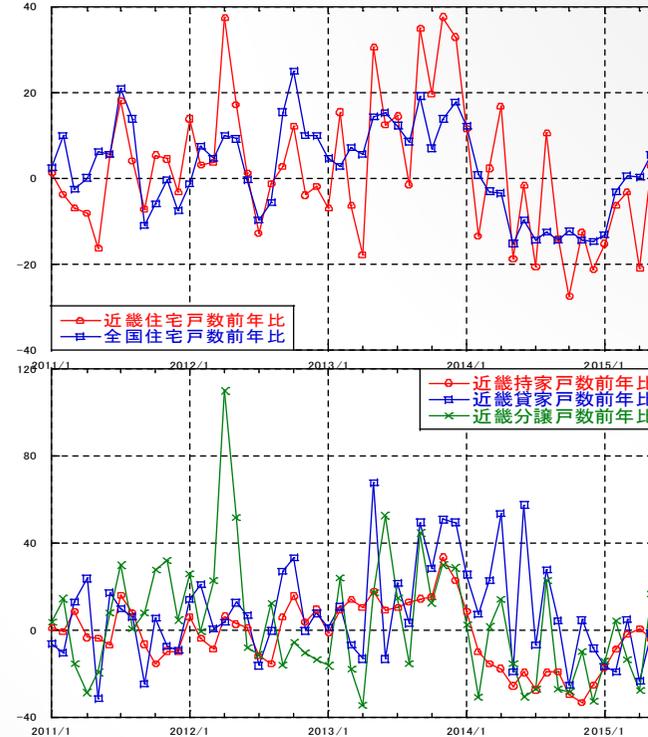
大型小売店販売額（前年同月比：％、2015年5月まで）



(注) 福井県を含む。
(出所) 経済産業省「商業動態統計」

- 関西5月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(全店ベース)は、前年同月比+6.9%と2カ月連続の増加。
- 百貨店は同+5.4%増加し、2カ月連続のプラス。
- スーパーは同+7.9%と2カ月連続のプラス。
- 全国の大型小売店販売額(5月、全店ベース)は同+6.2%と2カ月連続のプラス。
- 4月、5月ともに前年同月から増加しているが、これは消費増税の影響で、前年の販売額が低水準であるため。

新設住宅着工(前年同月比：％、2015年5月まで)

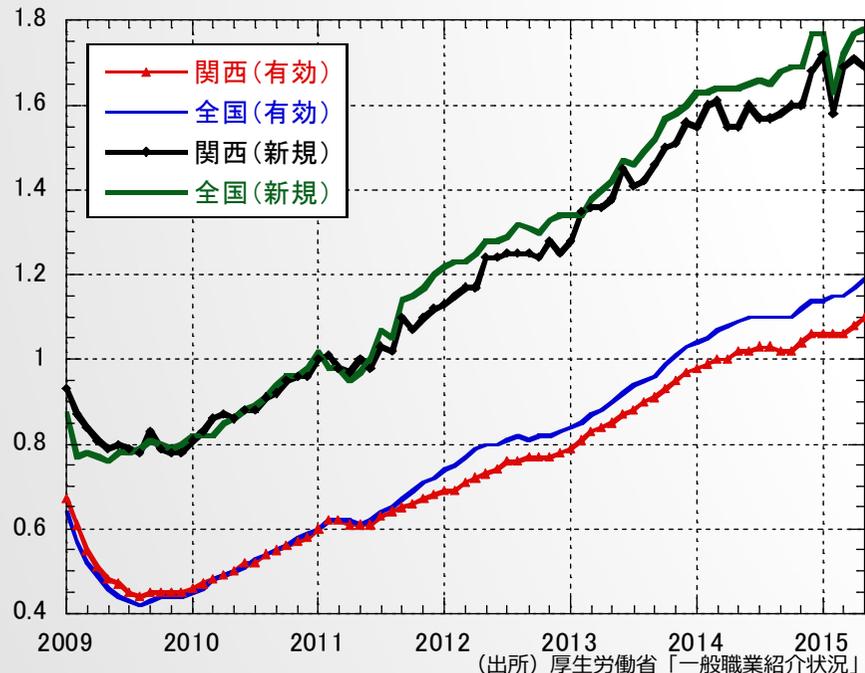


(出所) 国土交通省「住宅着工統計」

- 関西5月の新設住宅着工戸数は10,416戸。前年同月比+3.2%増加し、9カ月ぶりのプラスとなった。
- 全国は71,720戸、同+5.8%増加し、3カ月連続のプラス。
- 関西の住宅着工を利用関係別にみると、持家は2,452戸。同-4.1%と2カ月ぶりの減少。貸家は3,812戸、同-1.1%と2カ月連続の減少。分譲は4,084戸、同+16.3%と3カ月ぶりの増加。
- 5月の関西マンション契約率は70.5%(季節調整値、APIR推計)。好不調の目安となる70%を3カ月連続で上回っている。首都圏は72.1%(季節調整値、APIR推計)となった。
- 住宅着工は久方ぶりの増加となった。主に、分譲の大幅増加が貢献している。

～雇用～

求人倍率の推移 (季節調整値、2015年5月まで)

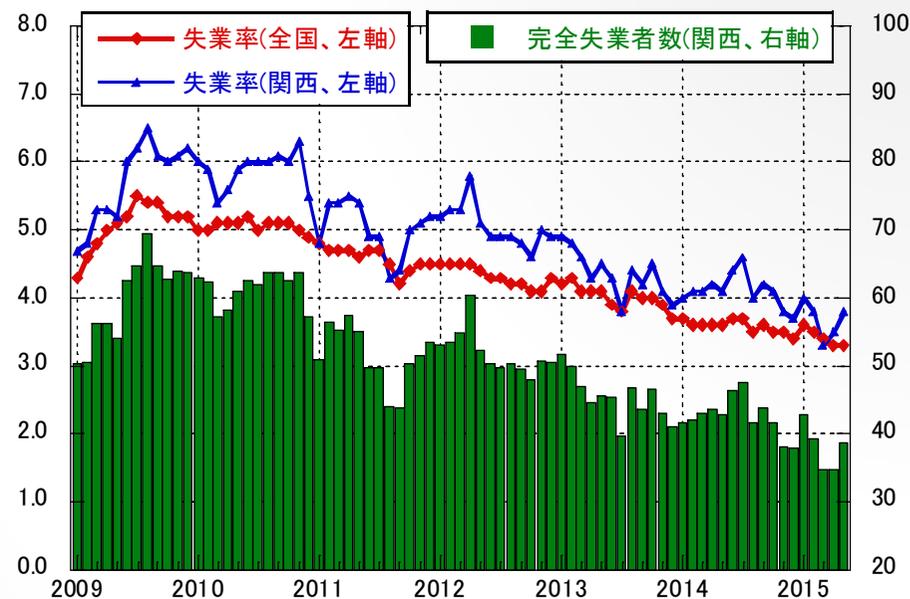


関西2府4県有効求人倍率(受理地別)(2015年5月)

	全国	関西	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
5月	1.19	1.10	1.07	1.12	1.20	0.97	0.98	1.06
4月	1.17	1.08	1.02	1.10	1.17	0.96	0.93	1.02

- 5月の関西の有効求人倍率は、前月比+0.02ポイント上昇し、1.10倍となり、2カ月連続の上昇。1.10倍台は2007年8月以来。全国も同+0.02ポイント上昇し、1.19倍と1992年3月(1.19倍)に並ぶ高水準。
- 府県別では全ての府県で有効求人倍率は上昇。大阪府で2007年10月(1.21倍)以来の高水準となった。
- 5月の関西の新規求人倍率は、1.69倍と前月比-0.02ポイント低下。一方全国は1.78倍と同+0.01ポイント小幅上昇。
- 関西の産業別求人数は、建設業・製造業で減少したものの、宿泊・飲食サービス業や生活関連サービス、小売業といったインバウンド関連業種で増加した。

完全失業率の推移 (季節調整値：%、万人、2015年5月まで)

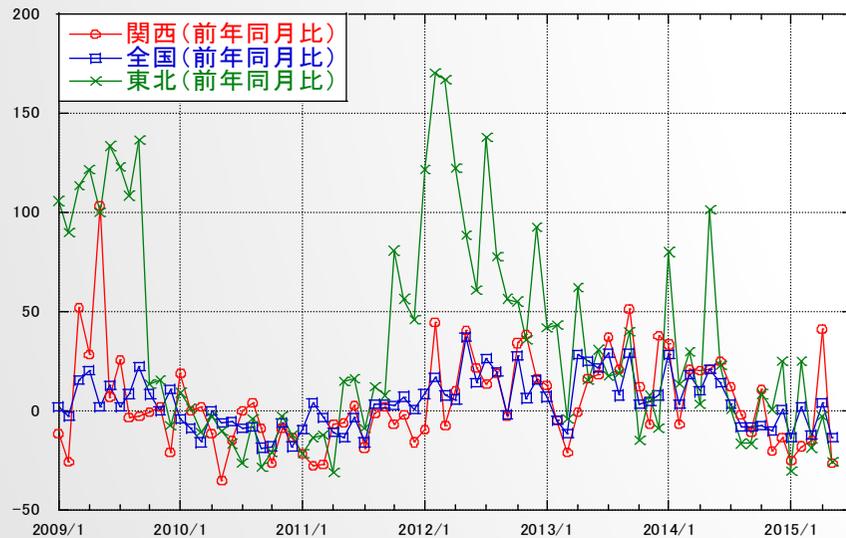


(出所) 総務省「労働力調査」

- 5月の関西の完全失業率(季節調整値：APIR推計)は3.8%で前月(3.5%)から0.3%ポイント上昇し、2カ月連続の悪化。労働力人口が増加しており、景気の好転による職探しの動きを反映したものと考えられる。
- 関西の完全失業者数(季節調整値：APIR推計)は38.6万人で前月(34.6万人)から4万人増加した。
- 一方、全国の完全失業率(季節調整値)は3.3%と前月から横ばい。中でも、女性の失業率は前月から-0.2%ポイント低下し、3.0%と1995年2月以来の低水準となった。景気回復に伴う人手不足で就業が進んだとみられる。
- 15～64歳の就業率(原数値ベース)をみると、73.3%となり、前年同月比+0.3%ポイント上昇。昨年の後半から高水準が続いている。

～公共投資～

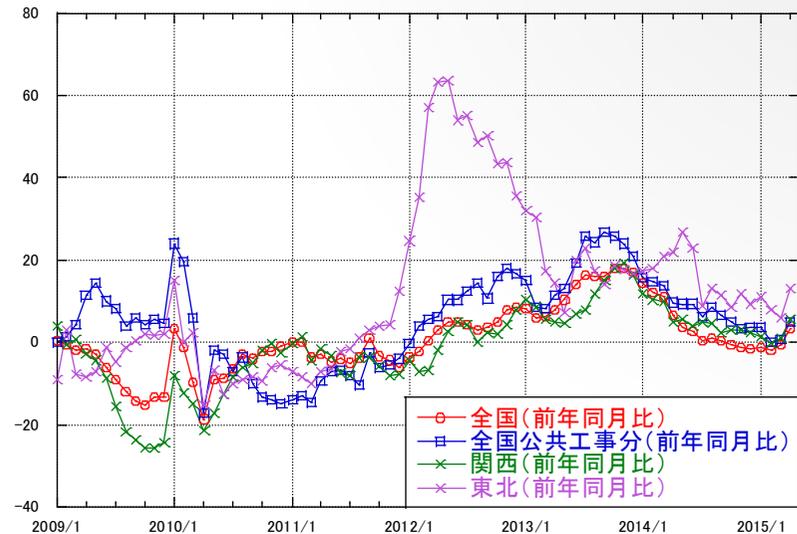
公共工事請負額(前年同月比：%、2015年5月まで)



(注) 福井県を含む。
(出所) 東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

- 関西5月の公共工事請負金額は1,276億円、前年同月比-26.5%と2カ月ぶりの大幅マイナス。
- 全国は1兆1,294億円で同-14.0%と2カ月ぶりのマイナス。
- 東北は2,096億円で同-25.3%減少し、3カ月連続のマイナス。
- 季節調整値(APIR推計)で見ると、5月は関西、全国共に2カ月ぶりに前月から大幅マイナス(関西：同-41.3%、全国：同-5.7%)。
- なお、関西の4-5月平均を1-3月平均と比較すれば、-47.4%と大幅な減少となり、マイナス幅は1-3月期(同-24.0%)から拡大している。

建設工事(前年同月比：%、2015年4月まで)

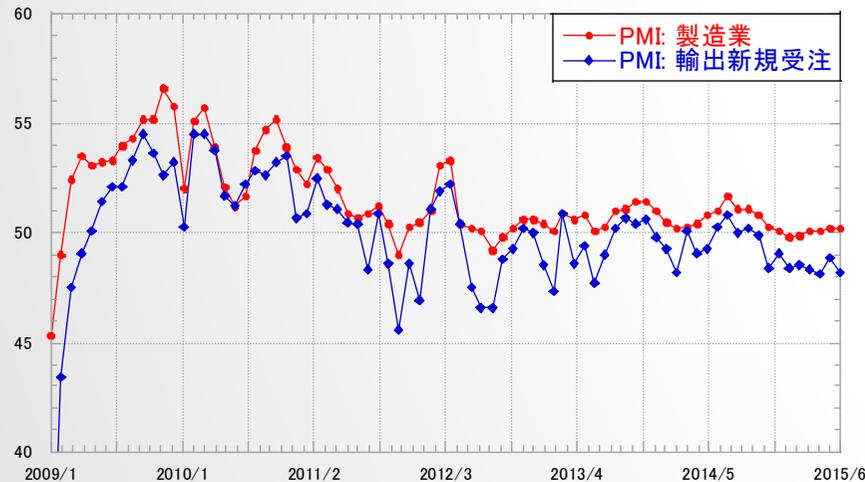


(出所) 国土交通省「建設総合統計」

- 関西4月の建設工事は4,679億円、前年同月比+5.8%と2カ月連続のプラス。
- 東北は5,096億円、同+13.1%と45カ月連続の増加。
- 全国は3兆6,321億円となり、同+3.4%と7カ月ぶりのプラス。
- うち、全国の公共工事は同+4.9%増の1兆4,458億円となった。伸びは39カ月連続の増加も、13カ月連続で1桁にとどまっている。
- 建設工事の伸びは停滞しているが、全国、関西とも前月からは幾分上向きとなった。

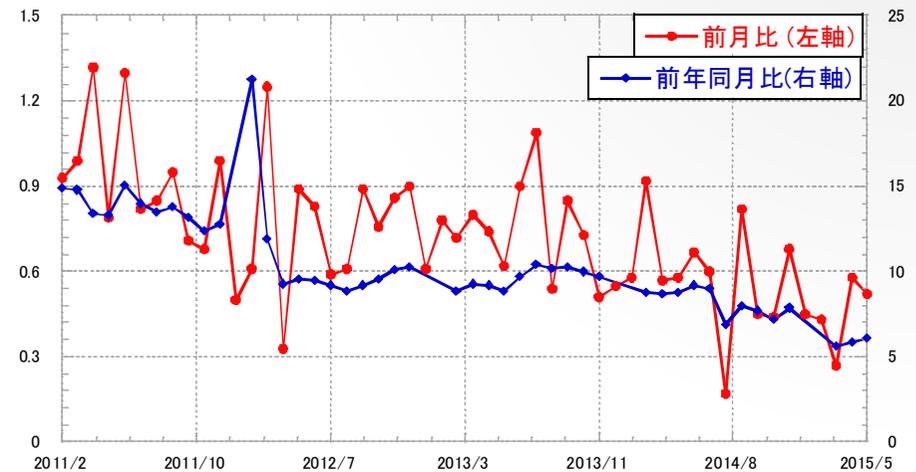
～中国経済動向①～

製造業購買担当者景況指数 (2015年6月まで：%)



(出所) 中国国家統計局; CEICデータベース

工業生産指数(2015年5月まで：%)



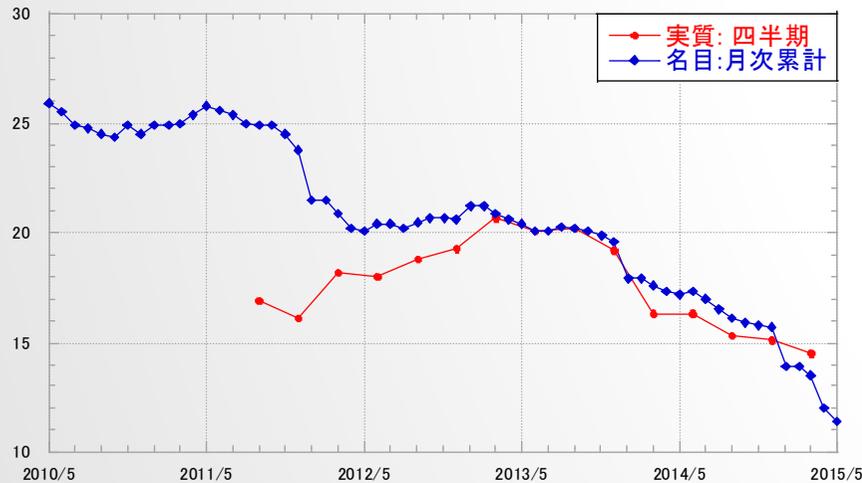
(出所) 中国税関; CEICデータベース(APIR推計)

- 6月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は50.2となり、前月から横ばい。2月に5カ月連続の前月比マイナスから脱したものの、改善は極めて緩やかである。
- うち、生産指数は52.9となり前月から横ばい。一方、新規受注指数は前月比-0.5ポイント低下し、50.1となった。3カ月ぶりの悪化。また、輸出新規受注指数も同-0.7ポイント低下し48.2となり、9カ月連続で50を下回った。雇用指数は前月から-0.1ポイント低下の48.1となり、2カ月ぶりのマイナス。2012年6月以来、37カ月連続で50を下回る状態が続いている。

- 5月の工業生産は前月比+0.52%と、前月から-0.06%ポイント低下した。前年同月比は+6.1%となり、前月より+0.2%ポイント上昇したが、昨年同年の水準を大きく下回る状況が続いている。
- 産業別に見ると、パソコン・通信及びその他電子設備製造業(同+9.9%)、化学原料・化学製品製造業(同+8.8%)、医薬製造業及びゴム・プラスチック製品製造業(同+8.6%)、有色金属圧延加工業(同+8.5%)等が高い伸びを示す一方で、電力・熱力生産・供給業(同+1.4%)、通用設備製造業(同+2.7%)、専用設備製造業(同+3.1%)、農副食品加工業(同+4.4%)等は比較的低調な伸びにとどまった。

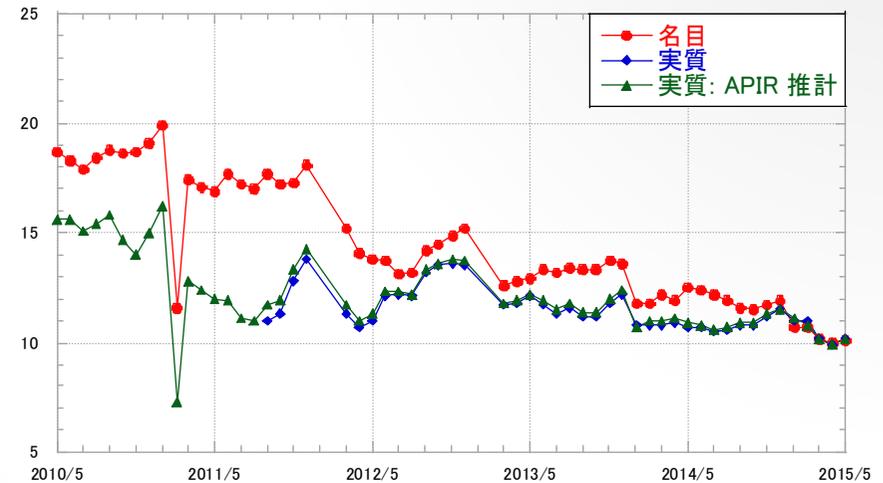
～中国経済動向②～

固定資産投資 (2015年5月まで：%) (累積伸び率)



(出所) 中国国家统计局; CEICデータベース

社会消費品小売総額 (2015年5月まで：%)



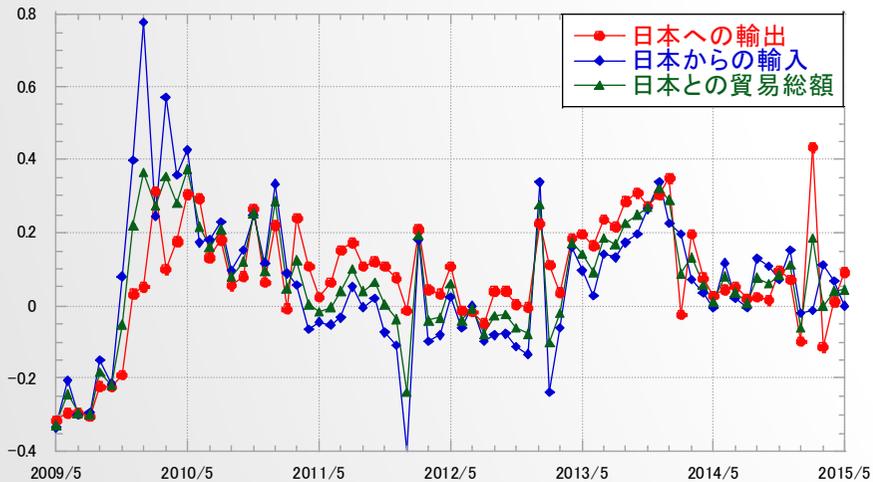
(注) APIR推計値は小売価格指数を用いて推計
(出所) 中国税関; CEICデータベース(APIR推計)

- 1-5月期の(累積)固定資産投資(名目)は前年同期比+11.4%となったが、11カ月連続で伸びが減速(1-4月期：同+12.0%)しており、2000年1-12月(同+9.7%)以来の低水準となった。
- 産業別にみれば、第1次産業は同+27.8%(1-4月期:+26.4%)、第2次産業は同+9.6%(1-4月期:+9.8%)、第3次産業は同+12.1%(1-4月期:+13.2%)となった。

- 5月の社会消費品小売総額の名目成長率は前年同月比+10.1%と前月(同+10.0%)からほぼ横ばいであった。消費は中国经济成長のエンジンと期待されているが、依然2桁の伸びを維持しており底堅いものの、全体を牽引する力はない。

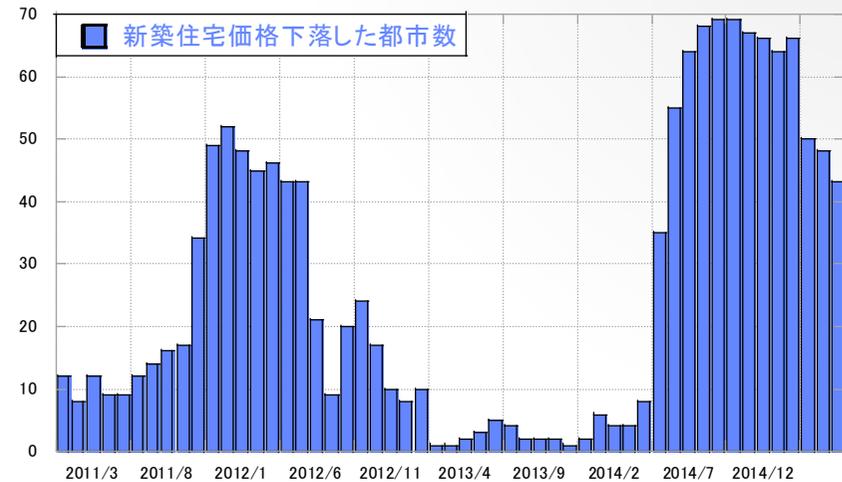
～中国経済動向③～

日本との貿易 (前年同月比：円ベース) (2015年5月まで：%)



(出所) 中国税関; CEICデータベース; APIR計算

新築住宅価格の主要都市集計 (2015年5月まで：都市数)



(出所) 中国労働市場情報観測センター; CEICデータベース; APIR計算

- 5月の中国の輸出額(速報値、ドル・ベース)は前年同月比-2.4%減少し、3カ月連続のマイナス。輸入額は同-17.7%(速報値)となり、7カ月連続のマイナス。
- うち、日本への輸出額は同-8.1%となり、前月(同-13.3%)からマイナス幅は縮小したが、3カ月連続のマイナス。日本からの輸入額は同-15.6%となり、7カ月連続のマイナス。前月(同-8.5%)からマイナス幅は拡大した。
- 円ベースに換算すると、日本への輸出額は同+9.0%となり、2カ月連続のプラス。日本からの輸入額は同+0.1%となり、3カ月連続のプラス。

- 不動産価格(新築住宅価格)を見ると、中国主要70都市のうち、5月は43都市で下落した。下落した都市の数は4月の48都市より減少した。一方、20都市で前月に比べ上昇、7都市で横ばいとなった。

※関西経済のトレンド 評価基準について

- 生産：近畿経済産業局『近畿地域鉱工業生産動向』生産指数(季節調整値)が前月比+0.5%以上であれば上向き、同-0.5%未満であれば下向き、それ以外は横ばい。
- 貿易：大阪税関『貿易統計』の近畿圏貿易収支(入出超額)前年同月から500億円以上の改善は上向き、同500億円以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- センチメント：内閣府『景気ウォッチャー調査』の近畿現状判断(方向性)DIが前月比で1ポイント以上の改善は上向き、1ポイント以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- 消費：近畿経済産業局『大型小売店販売状況』(全店ベース)が前年同月比で1%以上増加していれば上向き、同1%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- 住宅：国土交通省『住宅着工統計』新設住宅着工戸数が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- 雇用：厚生労働省『一般職業紹介状況』有効求人倍率(季節調整値)が前月比で0.01ポイント以上の改善は上向き、変化がなければ横ばい、0.01ポイント以上の悪化は下向きとする。
- 公共工事：西日本建設業保証株式会社『公共工事前払金保証統計』公共工事請負金額が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。